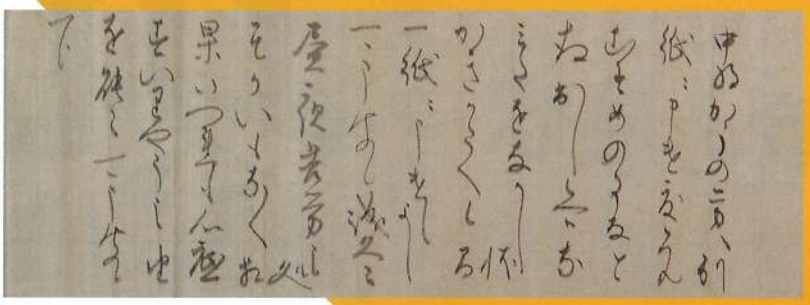
きょうきょう きんげん 恐々謹言

徳島藩主蜂須賀家の書状

「恐々謹言」とは、書状の末尾によく記される、文章をしめくくる決まり文句です。メールも電話もない時代、人々は紙と筆で文章を記し、用件を伝えあっていました。もちろん徳島藩を治めていた蜂須賀家の殿様たちも例外ではありません。この展覧会では、徳島城博物館が所蔵・保管する歴代藩主の書状を取りそろえ、それらに記された内容に目を向けていきます。何気ない日常の一コマから、誰もが知る事件に関わるものまで、書状が伝える歴史の世界をどうぞお楽しみください。

二代藩主　忠英

蜂須賀忠英自筆書状　慶安２年（1649）

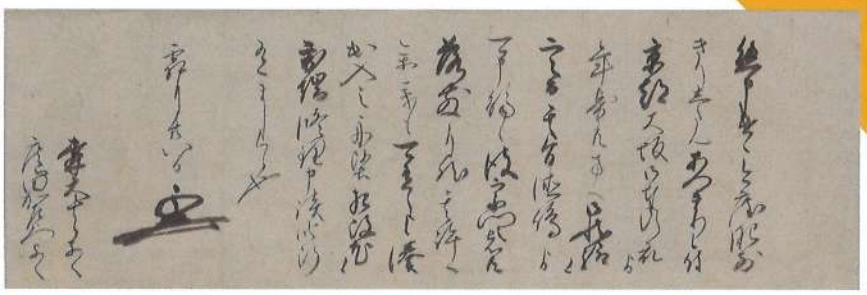


愛娘の死

「なミたをなかし、状かきかたく候」

蜂須賀忠英画像（部分）
明治初年　徳島城博物館蔵

蜂須賀忠英書状　寛永１４年（1637）　徳島城博物館蔵

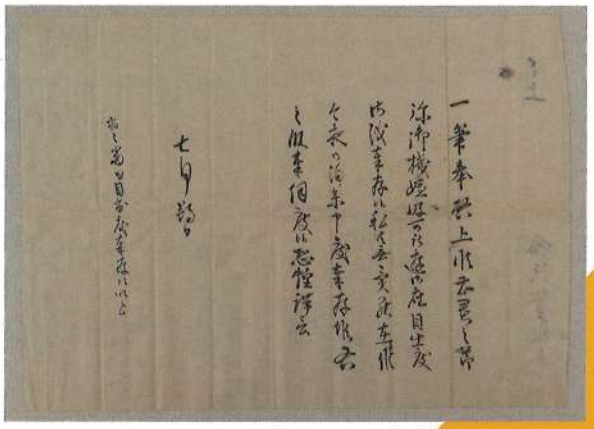


島原の乱勃発

「今度肥前きりしたんあつまり候に付き」

十一代藩主　治昭

蜂須賀治昭自筆書状　江戸後期



少年時代の母への手紙

「今夜御泊りに参り申したく存じ奉り候」

蜂須賀治昭書状　安永２年ヵ（1773）　安岡洸貴氏蔵

幕府との意思疎通

「来年参勤時節の儀、窺い奉るべきとして」

蜂須賀治昭画像（部分）
江戸後期　徳島城博物館蔵（蜂須賀正子氏寄贈）